

研究主題 **資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む
授業の在り方に関する研究（2年次）**

－主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して－

【2年研究】

中学校・高等学校 国語科



【研究担当者】早川 貴之 横田 昌之

【この研究に対する問い合わせ先】

TEL 0198-27-2735 FAX 0198-27-3562

E-mail kyouka-r@center.iwate-ed.jp

I 授業改善に向けた考え方の整理

当該単元で育成を目指す資質・能力を明確にし、それを育成するのに適した言語活動を通して指導をしていくことが、国語科の学びの根本であり、その学びをより充実させていくことが国語科におけるこれからの授業改善であると考えています。

(1) 「言葉による見方・考え方」を働かせる学び（ガイドブック pp. 9-10）

これまでの学びをもとに「言葉による見方・考え方」を単元レベルで、付けたい力（資質・能力）と関連付けて設定し、どういった「見方・考え方」を働かせようとしているのかを明確にします。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現の手立て（ガイドブック pp. 11-12）

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」それぞれの学びにおける生徒の“**具体的な姿**”をイメージし、その達成のための教師の“**手立て**”を考えました。

【それぞれの学びにおける生徒の姿】

【ゴールの明確化】

この時間で、何ができるようになればよいか、何がわかればよいかをつかんでいる。

【それぞれの学びの実現に向けた教師の手立て】

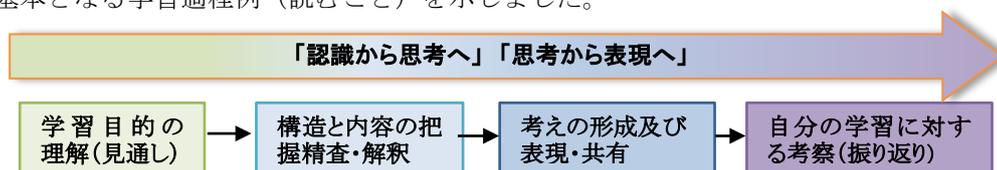
【ゴールの明確化】

教師が、課題の演示をしたり、自作のモデルを提示したりする。「対象・条件・行動」による学習課題とする。

(例) 「主体的な学び」より

(3) 資質・能力を育む学習過程（ガイドブック pp. 17-18）

言葉による「見方・考え方」と「学びに向かう力、人間性等」を土台としての、学習活動の段階や学習内容における三つの視点の位置付け、学習活動内で働かせる資質・能力について整理し、本研究の基本となる学習過程例（読むこと）を示しました。



これらは全て「言語活動を充実させた単元のデザインをどうするか」ということに結び付いてきます。このことを踏まえ、本研究では次の2つのことについて取り組むことにしました。

○単元構想シートの活用による単元のデザイン

- ・単元の指導をデザインしていくことを目指した「単元構想シート」を開発し、それに基づき授業実践すること。

○生徒の学習の成果を的確に捉える学習評価の充実

- ・単元に課題解決の言語活動を位置付け、その達成度合いをルーブリックに基づき評価すること。

II 単元構想シートの活用による単元のデザイン

1 単元の目標

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」については新学習指導要領の「2 内容」を基にして、記述します。「学びに向かう力等」については新学習指導要領に示された目標(3)に基づき、単元の内容に合わせて明確にします。

2 単元で働かせる「見方・考え方」

ガイドブック p.10 の『言葉による見方・考え方』の構造を基にして、「言葉による見方・考え方」を単元レベルで設定し、記述することで単元構想につなげます。

3 単元に位置付けた「課題解決的な言語活動」と「期待する姿」

秋田大学大学院教育学研究科教授 阿部 昇氏は「活動あって学びなし」の授業に陥らないようにしていくこととして「豊かな言語能力を育てていくためには、一つにはその単元・授業でどう国語の力を育てるかを具体的に意識することが重要である。(『国語教育』6月号(2017) p.31)」と述べています。

ガイドブック p.17 の「資質・能力を育む学習過程例(読むこと)」を基にして、「認識から思考へ 思考から表現へ」というプロセスの中で、本単元では『何を認識して』その成果を『どのように表現するか』を具体的に意識し、記述することで単元の構想につなげます。
「期待する姿」はガイドブック p.26 の「パフォーマンス課題におけるルーブリック」3の段階となります。

4 単元の評価規準

ガイドブック p.23 の「国語科における評価の観点のイメージ」を基にして、単元の目標と単元に位置付けた課題解決的な言語活動を掛け合わせ、生徒の具体的な姿として記述することで単元の構想につなげます。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

ガイドブック p.12 の「それぞれの学びの実現に向けた教師の手立て」を基にして、単元の目標達成に向けた指導の手立てを記述します。
単位時間ごとに、指導の工夫や手立てはありますが、ここにはその単元の中で特に重点となる手立てについて記述することで単元の構想につなげます。

国語科単元構想シート		
単元名「心を感じ、心を返す」 ～お気に入りの一行詩に下の句を付けよう～	時期	
主教材:「空を見上げて」 補助教材:「みあげれば がれきの上にこいのぼり・・・」	対象学級	
	生徒数	
	担当者	
1 単元の目標(何ができるようになるか)		
知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力等
・事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(1)ウ)	・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(Cエ) ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(Cオ)	・言葉を通じて、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとするとともに、集団としての考えを発展・深化させようとしている。
2 単元で働かせる「見方・考え方」		
○言葉にはどのような力があるのかについて考えを深めるため、 ○女川一中生の一行詩の情景と表現の関係を語句の文脈上の意味に着目して捉え、 ○一行詩に込められた思いとその思いにどう応えるかを考え、下の句として表現すること。		
3 単元に位置付けた「課題解決的な言語活動」と「期待する姿」		
【単元に位置付けた課題解決的な言語活動】		
何を認識して	どのようなことを思考し	どのように表現するか
・言葉には心を動かす力があること ・心を動かされたのは言葉に「あきらめない心」が込められていたからであること ・行動へとつながり、心を込めた言葉を返したこと	・どの一行詩が自分の心を動かすか ・その一行詩には、どのような心が込められているか ・どのような心をどのような言葉で返せばいいか	・補助教材中にある一行詩の中から一つを選んで、 ・その言葉から見つけた心を解説し、 ・自分の心を込めた下の句を作り、 ・1枚のシートにまとめて ・発表する
【期待する姿(ゴール像)】		
・お気に入りの一行詩に込められた心を情景や表現を根拠に解説し、そこに対して返したい自分の心を明らかにした上で、下の句として表現している。		
4 単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
一行詩をよみ、言葉と心情の関係を理解し語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。	一行詩の情景や、表現の効果について、分析的に捉え、根拠を明確にして考えている。 一行詩を読んで理解したことに基づいて、下の句を付けることで自分の考えを確かなものになっている。	一行詩の中に込められた心を読むことを通して、自分のものの見方や考え方を深めよとするとともに、言葉を通じて人と関わり、自分のみではなく他の人の考えを広げたり、深めたりしようとしている。
「主体的・対話的で深い学び」実現に向けて		
主体的な学び (学習への興味や関心を高める場面、学習の見通しを持つ場面、学習を振り返り次につなげる場面の設定)	対話的な学び (自己の考えを広げ深める場面の設定)	深い学び (見方・考え方を働かせながら思考・判断・表現する場面の設定)
【ゴールの明確化】 【興味・関心 目的意識の醸成】 【学習(活用)意欲の高まり】	【自己の考えを広げ深める対話】 【内容知の相互確認の対話】	【言葉への気付きのある学び】 【広げ深まった考えの整理】 【働かせた「見方・考え方」の自覚】

5 単元の指導と評価の計画

5 単元の指導と評価の計画(全4時間)			
時間	学習過程	【評価の観点】 評価規準 【評価方法】	学習課題(■)と主な学習活動(◎、○) ※◎は学習活動を複数記述した場合の重点活動を示す。 ◎は学習活動を複数記述した場合の重点活動を示す。
1	学習目的の理解	【主体的】 連句によってもの見方や考え方についてどのような力が身に付くかを考えようとしている。 【発言・観察・振り返りの記述内容】	【学習課題】 ■「空を見上げて」から、どのような言葉のやりとりがあったかを読み、学習の見通しをもとう。 【主な学習活動】 ◎モデルシートから連句という言語活動を理解し、課題進行に必要な力を見出すことからプランを立てる。
2	構造と内容の把握 精査・解釈	【知・技】 言葉と心情の関係を理解し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思・判・表】 一行詩の情景や、表現の効果について、分析的に捉え、根拠を明確にして考えている。 【学習シート・観察・振り返りの記述内容】	【学習課題】 ■言葉はどうやって心を動かしたのか、言葉に込められた心と連句によって返した心を見つけてよう。 【主な学習活動】 ◎女川中生の一行詩にどのように「あきらめない心」が込められているか、返した連句にはどのような心が込められているかを調べる。
3	考えの形成及び 表現・共有	【知・技】 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思・判・表】 一行詩を読んで理解したことに基づいて、下の句を付けることで自分の考えを確かなものになっている。 【学習シート・観察・振り返りの記述内容】	【学習課題】 ■心を動かされた一行詩に、言葉で心を返そう。 【主な学習活動】 ◎一行詩集の中から、自分が心を動かされた一行詩を見つけ、その一行詩にある心を読み、自分の心を込めた下の句(七・七)を作成する。 ○自分の考えを確かなものにするため、相手を選択し必要な交流を行う。
4	考えの形成及び 表現・共有 自分の学習に対する考察	【知・技】 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすことができる。 【主体的】 一行詩の中に込められた心を読むことを通して、自分のものの見方や考え方を深めよとするともに、言葉を通じて人と関わり、自分のみではなく他の人の考えを広げたり、深めたりしようとしている。 【観察・振り返りの記述内容】	【学習課題】 ■一行詩の言葉の心、返した自分の心と言葉を発表し合い、身に付いた力を確かめよう。 【主な学習活動】 ◎学習内容を共有、及び相互評価をするため、グループ内で交流するとともに思いや考えを深めるため、心を返すのによりふさわしい表現を考える。 ○単元を通して身に付いた力を確かめるため、振り返りシートへを通して交流を行う。

ガイドブック p.17 で示した「資質・能力を育む学習過程」の「学習活動の段階」を示しています。

各単位時間における、評価の観点、評価規準、評価方法を示しています。

主な学習活動を◎、○の記号で区別して示しています。(◎は学習活動を複数記述した場合の重点活動)
『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて』で記述したことが、単元全体を見通した際にどこに位置付けると効果的に働くか濃い色で示しています。

【単元構想シートを活用した先生の声】
○「認識から思考へ 思考から表現へ」という学習の流れが明確になり、単位時間の学習活動の構想につながりました。
○単元のゴールと各単位時間のゴールの見通しをもち、無駄な時数のないすっきりとした授業実践を行うことができました。



【単元構想シートを活用した先生の声】
△書き慣れていないため難しさがありました。どのように書けばよいのか迷う部分がありました・・・

多くの先生方に活用していただけるよう、各項目を記述する目的や記述する際、本書のどこを参考にすればよいかを示しました。

III 生徒の学習の成果を的確に捉える学習評価の充実

生徒の学習状況を細やかに捉えて見取っていく必要があることから、単元に課題解決的な言語活動を位置付け、パフォーマンス評価を行っていくことはますます重要になると考えます。思考力・判断力・表現力等の育成のため、単元に発表、案内、報告、編集、観賞、批評などの課題解決的な言語活動を位置付け、その達成度合いをルーブリックに基づき、評価することを取り上げました。

【表】パフォーマンス課題におけるルーブリックとモデル

段階	○一行詩を読んで理解したことに基いて、下の句を付けることで自分の考えを確かなものにする。【思考・判断・表現】	
5	「4」に加えて、自分の心を表す言葉選びのこだわりや表現の特徴も明らかにした上で、下の句を付けることができた。	「4」に加えて、～ことができた。
4	「3」に加えて、一行詩の言葉の背景や表現の効果にも触れて解説し、そこに対して返したい自分の心を明らかにした上で、下の句を付けることができた。	「3」に加えて、～ことができた。
3	お気に入りの一行詩に込められた心を情景や表現を根拠に解説し、そこに対して返したい自分の心を明らかにした上で、下の句を付けることができた。	(期待する姿) ~ことができた。
2	お気に入りの一行詩を選び、ある程度意味がつながるように「七・七」の形で下の句を付けることができた。	(不十分ではあるが) ~ことができた。
1	下の句を付けることができなかった。	~ことができなかった。

4, 5の段階の視点

4及び5の段階を作成する際、次のような視点を参考にすることが考えられます。
「要素の増加」「深化」「正確性の向上」「情報量の増加」「関連性の強化」

生徒との共有

生徒がより目的意識を強く持ち、主体的に学習に取り組むことを目指し、ルーブリックを生徒と共有することとしました。

単元に位置付けたパフォーマンス課題に対する具体的ルーブリック

ルーブリックの基本フォーマット

IV 教師と生徒との共有

当該単元で育成を目指す資質・能力を明確にすること、その資質・能力を育成するのに適した言語活動を通して指導をしていくことには、教師と生徒との共有が不可欠です。そこで、今回の授業実践では、振り返りシートなども活用してみました。

見通し (ルーブリックも含む)

振り返り

付けたい力の共有

教師自身が「単元」の捉え方を明確にし、生徒と共有して、その学びをより充実させていくことが国語科におけるこれからの授業改善であると考えています。

本ガイドブックにより、新学習指導要領への移行がスムーズに図られるとともに、今後の授業実践が生徒たちにとっても、教師にとっても有意義なものになるよう活用していただければ幸いです。

- 本研究で取り組みました国語、社会・地歴公民、数学、理科、外国語（英語）の研究成果をガイドブックとしてまとめておりますので、ぜひご覧ください。
- 本研究の報告書（総論）と各教科のガイドブック及び単元構想シートは、下記の岩手県立総合教育センターのWebページに掲載しております。
- これまでの研究一覧 <http://www1.iwate-ed.jp/kenkyu/h09~/index.html>